

今周期採卵ご要望書 [体外受精用]

保険診療で体外受精をする方は、説明動画(6分)を必ずご覧ください。



診察券番号

氏名

1 今日 月経何日目にあたりますか？

日目

2 保険診療説明動画(右上のQRコード)は視聴済みですか？ はい

3 前周期に妊娠行為をされた方は、今周期の出血は月経ではなく妊娠後出血の可能性もあるため、妊娠判定をしてから採卵周期に入ることを推奨します。これは任意なので希望を1つ選んでください。

妊娠検査薬(尿検査)990円(税込)をしてから、採卵周期の検査を希望

妊娠検査は実施済み or 自己判断にて検査は希望しない

4 今周期の卵巣機能を判断するために、この後、FSH/LH/E2の採血検査をします。来院時間が17:30以前の方は採血結果がでてから診察をご案内できます。

5 今周期、月経14日目までの間で、「来院できない日」をお書きください。

6 今周期の採卵で着床前診断PGT(受精卵の染色体異常を調べる検査)を希望しますか。

希望しない

希望する。PGT外来は受診済み。(PGTは自費のため本採卵～胚移植周期も自費です)

7 今回の体外受精(採卵～胚移植)は、保険診療と自由診療のどちらを希望しますか？

保険診療を希望。以下①②を満たし③④は承知 自由診療を希望

①保険診療が可能な女性年齢

今日現在43歳未満の方。または1979年4月1日～9月29日生まれで9月30日までに採卵周期2・3日目が開始し、まだ一度も保険適用の体外受精をしていない方

②保険診療が可能な胚移植回数(胚移植回数制限を超過すると保険診療の採卵はできません)

40歳未満	保険現時点で適用胚移植回数は5回以下	
40歳～43歳未満	保険現時点で保険適用胚移植回数は5回以下	1982年4月1日～9月29日生まれで9月30日までに採卵周期2・3日目が開始の方
	保険現時点で保険適用胚移植回数は2回以下	上記以外の方

③保険診療の治療条件

- ・保険適用が可能な薬剤で、保険適用可能な容量・用法にて行います。
- ・排卵誘発の副作用であるOHSS(卵巣過剰刺激症候群)の予防薬が保険適用外のため、OHSSリスク回避を優先した排卵誘発をします。
- ・保険適用可能な超音波回数、採血回数で行います。
- ・着床前診断PGTを希望する場合は、保険診療では行えません。
- ・着床不全検査で問題が見つかり、これまでプログラフやヘパリンを併用していた場合でも、保険診療ではこれらの薬剤の併用はできません。
- ・胚移植前のフラジール、胚移植後のアスピリンの処方できません
- ・胚移植周期に再生医療である子宮内膜再生増殖法ERPを併用できません(2022年3月以前に凍結したERP液がある方はお申し出ください)

④高額療養費制度利用の注意

- ・高額療養費制度は月の保険診療の合計で検討します。周期の合計ではありませんのでご注意ください。また、制度に関する詳細は、保険証の保険者(保険組合)にご確認ください。

8 今周期は新鮮胚移植の希望があるのかどうかについて以下のいずれかにチェックをしてください。新鮮胚移植を前提にするかどうかで排卵誘発が変わりますので希望をしっかりとお知らせください。本要望書をもとに診察では相談の上で方法を決定しますので、あくまでも現時点での患者様の希望として以下のいずれかを選択してください。

新鮮胚移植を強く希望 可能なら新鮮胚移植を希望 凍結融解胚移植を希望

	新鮮胚移植 採卵で得た受精卵をすぐ移植する方法	凍結融解胚移植 受精卵は凍結し翌周期以降で移植する方法
メリット	すぐ移植したい、胚移植費用を抑えたい（凍結胚移植より安価）、採卵から胚移植まで同月内で高額療養費制度を利用したい方に有効	新鮮胚移植をしないことで、採卵や移植に特化した周期が作れるため、治療選択の自由度が上がり、妊娠率が高い方法
デメリット	凍結融解胚移植と比べて妊娠率は低下します。また、新鮮胚移植を前提とするため、自然か刺激量の少ない排卵誘発方法になる	採卵した周期で移植できず、翌周期以降になる。また、胚移植周期の費用は新鮮胚移植より高い

9 希望する排卵誘発を1つ選んでください。

< 保険診療の方 >

完全自然 低刺激 保険範囲の強め刺激 医師にお任せ
↑ 新鮮胚移植は出来ない可能性が高まる

< 自由診療の方 >

完全自然 低刺激 中刺激 高刺激 医師にお任せ

10 今周期採卵の受精に使用する精子について教えてください。

当日提出する新鮮精子を使用 [推奨] すでに凍結している精子を使用
 これから凍結する精子を使用

11 採卵の時、麻酔下での子宮内膜炎検査EMMA/ALICE [先進医療：71,500円] の希望はありますか？

EMMA/ALICEとは

慢性子宮内膜炎（子宮内の細菌が子宮内に炎症をおこす）を起こす原因となる細菌を調べるための検査。着床を阻害する菌の量を調べる検査です。不妊症の方の約30%が罹患していると言われており、当院での検査陽性率は24%です。検査のために子宮内膜を採取する時に痛みを伴うことから採卵時麻酔下で希望する方が多いため本要望書で確認しています。保険診療でも自由診療でも可能です。

* 子宮内膜を採取しますので、新鮮胚移植はできません。

EMMA/ALICEの希望なし EMMA/ALICEの希望あり
(新鮮胚移植はできないこと承知)

12 採卵後、受精卵の培養を通常で行うか、タイムラプスを希望するのかについては、採卵決定時に確認します。タイムラプスの場合は、受精卵へのストレスを軽減できます。胚盤胞形成率は通常より11%上昇します。



タイムラプス詳細